



EPSホールディングス<4282>、MBOで株式を非公開化



新薬開発支援などを手がけるEPSホールディングスは27日、MBO（経営陣による買収）で株式を非公開化すると発表した。同社創業者で現在会長の厳浩氏が代表を務める新鷹（東京都新宿区）がTOB（株式公開買い付け）を実施し、完全子会社化を目指す。TOB成立後のEPSに対しては新設会社を通じて医薬品卸大手のスズケンが20%を出資する予定で、EPSはスズケンの持ち分法適用関連会社となる。EPSはTOBに賛同している。

新薬開発の治験支援など主力事業を取り巻く環境変化に的確に対応し、中長期的な成長につなげるためには非公開化を通じて柔軟かつ機動的な経営判断が行える体制が望ましいと判断。今年5月に創立30周年の節目を迎え、非公開化の実行を「第2の創業」の機会とする。TOB成立後、東証1部への上場は廃止となる見通し。

TOB主体である新鷹は、厳会長の資産管理会社でEPS株式22%を所有する筆頭株主のワイ・アンド・ジー（東京都新宿区）が設立。買付価格は1株につき1800円で、TOB公表前日の終値1319円に36.47%のプレミアムを加えた。買付予定数は所有割合約78%にあたる3475万3934株で、買付代金は最大625億5708万円。買付予定数の下限は2002万2368株。

買付期間は5月28日～7月8日。決済の開始日は7月15日。公開買付代理人は三菱UFJモルガン・スタンレー証券（復代理人auカブコム証券）。